



鹿児島県護憲平和 フォーラム情報



NO—178 2025 年 5 月 1 日

発行：鹿児島県護憲平和フォーラム Email:kenheiwa@bronze.ocn.ne.jp
連絡先：鹿児島市鴨池新町 5-7 TEL 099-252-8585 FAX099-258-4560

人権に関して思うこと

ブログなどにアイヌ民族、在日韓国・朝鮮人への差別的投稿をした杉田水脈元衆院議員を自民党が夏の参院選比例代表で公認したとのニュースを見た。杉田氏は 2016 年、国連の会議に参加した際、「チマ・チョゴリやアイヌの民族衣装のコスプレおばさんまで登場」などとブログに投稿。2023 年に札幌法務局と法務省が人権侵犯と認定した人物である。

「ありえない」の一言であるが、この記事で、人権について考えさせられたことを思い出した。

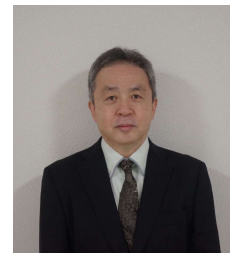
私は 1985 年から約 5 年京都に住んでいたことがあり、大学に在日韓国人の同級生がで、そこで、在日韓国・朝鮮人への差別の実態を聞かされた。多くを語るスペースはないが、その一つが「在日外国人に対する指紋押捺制度」である。この制度は、かつて日本に在住する 16 歳以上の外国人を対象に、外国人登録の際に指紋の押捺を義務付けていた制度である。これは、特に在日韓国・朝鮮人を中心に、人権侵害であるとして長年にわたり強い批判と反対運動が起こった制度であった。人権侵害とされた主な理由は、在日韓国・朝鮮人の多くは、日本の植民地支配という歴史的経緯から日本に居住するようになった人々であり、指紋押捺制度は、あたかも犯罪者のように扱われていると感じさせ、民族的な尊厳を傷つ

けるものであったことや指紋を押す行為や、それを拒否した場合の不利益（再入国不許可、登録証の不交付など）は、在日韓国・朝鮮人に大きな精神的苦痛を与えるものであったということである。こうした批判の高まりを受け、1999 年の外国人登録法改正により、指紋押捺制度は 2000 年に全面廃止された。これは、長年にわたる在日韓国・朝鮮人を中心とした人権団体や市民運動の粘り強い活動の成果だったと言える。

このことで何を思い出したかという、その友人の母親の言葉である。友人の母親は普通のどこにでもいるお母さんだったが、子ども孫の未来のためにと、一生懸命に（それこそ命を懸けて）反対運動をしていた人だった。その方が、「自分たちに対して、政治家や圧力団体が言うてくることなんて、何も怖くないし悲しくもない。ただ、（内容を何も知らない）普通の人たちの蔑んだような、危ないものをみるようなその目が悲しい」と言っていたことだ。

改めて、アンコンシャス・バイアスにならないよう気を付けながら、人権侵害・差別とは何かを学び、それをなくすための行動を起こしていきたい。

副代表 吉村 清隆



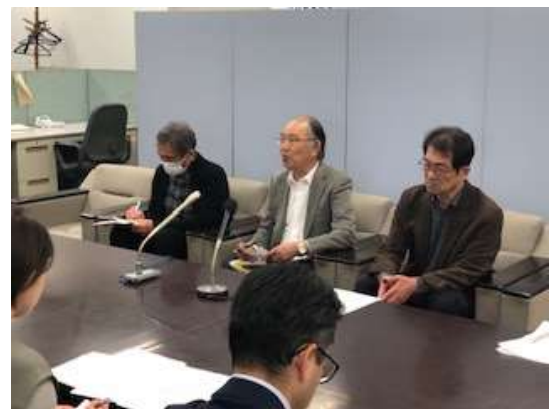
川内原発監視行動を集約し

九州電力と県知事へ申し入れ

2025 年 2 月 14 日から 16 日かけて、鹿児島県・関係市町・内閣府主催による原子力防災訓練が約 4,820 人の参加で実施されました。私たち脱原発鹿児島フォーラム(以降、フォーラム)は、この訓練を監視しました。その結果、多くの課題が見つかりました。例えば、昨年 1 月の能登半島地震による道路の陥没・隆起の状況から、「自家用車で避難できるか、渋滞等の混乱、放射能放出時に担当職員・救急車両が現地に行けるか」等の意見をまとめて、九電池辺社長と塩田知事に申し入れを行いました。

4 月 3 日には、九電鹿児島支社内のロビーで、支援する多くの仲間の参加のもと、①原発事故は県民課題とすること、②始良カルデラ爆発等を想定し実効ある訓練を計画・実施すること、③川内原発内の情報を市民に公開すること、④スピーディ情報を公開し県民が活用・避難できるよう政府に要望することなどを記した要請書を手渡しました。

「4 月 4 日には、知事への申し入れの前に県庁内で、記者会見を行い、フォーラムは、反原発や防災訓練の問題点について、国・県・九電と反対の立場で意見を述べました。その後、①原発事故は県民全体の課題とすること、②始良カルデラ爆発等を想定し実効ある訓練を計画・実施すること、③避難先の自治体の寝具・食料等の準備状況を把握すること、④スピーディ情報(緊急時迅速放射能影響予測ネットワークシステム)を公開し県民が活用・避難できるよう政府に要望することなどを、記した要請書を九電同様に、県知事に要請しました。



た要請書を九電同様に、県知事に要請しました。

フォーラムは、住民の生命を守るためには、原発稼働停止・廃炉しかないと判断します。これらを前提として、これからも防災訓練にかかわっていきます。

忙しい中、行動に参加いただいた皆さんに感謝申し上げます。

奄美・嘉徳の護岸工事とオスプレイ低空・夜間飛行禁止を外務・環境・防衛省に申入れ

奄美ブロックと県フォーラムは、2025 年 4 月 14 日(月)午後から衆議院第一議員会館の会議室で、中央フォーラムの染・代表の協力をいただき、外務省(国際文化協力室)・環境省・防衛省の担当者と連続して「世界自然遺産保護のため、自然破壊の公共工事中止と日米軍事訓練禁止」を求めました。

はじめに、染・代表から「世界自然遺産に登録された奄美・徳之島では、①日米軍事訓練、②自衛隊のミサイル基地建設、③沖縄辺野古への土砂搬出、④嘉徳海岸の護岸工事などで自然破壊が進み、基地の島になりつつあるのではという懸念や不安が広がっています。本日は地元の現状を訴え、改善に向けた申し入れを行いますので、よろしくお願ひします」と、あいさつしました。

次に、奄美ブロックの関・代表が申し入れの前に訴えたのは、奄美全域で壊滅状態にある「ソテツ」の問題で、外来種のソテツシロカイガラムシが、ソテツの幹や葉に寄生し、吸汁する害虫で増殖力が高く、被害木が枯死します。この害虫が沖縄辺野古への土砂搬出で、沖縄に渡ることがあってはなりません。また、奄美の瀬戸内町嘉徳川、嘉徳海岸に広がる嘉徳砂丘流域一帯が世界遺産の緩衝地帯です。鹿児島県は貴重種の「リュウキュウアユ」や固有種の「スジエビ」が棲息している嘉徳海岸を、台風被害による



「海岸保全地区」に指定し、コンクリート護岸「堤」を建設するとはしましたが、砂は減るどころか更に増えづけていることを訴え、世界自然遺産関係を所管する外務省・国際文化協力室の課長補佐には、護岸工事の中止を求めました。さらに、毎年のように日米軍事訓練が奄美群島各地で実施され、徳之島ではアマミノクロウサギの棲息する天城岳などで「山地機動・偵察訓練」が行なわれ、地元自然保護団体から「日米軍事訓練のあと、希少植物の踏み荒らし・消失」が報告されました。奄美自然遺産のシンボル森林「金作原」上空を昼夜問わず低空飛行訓練する米軍機オスプレイの飛行禁止を求めました。国際文化協力室からは「奄美からの現状を伺いました。国内の自然・文化遺産について指導する権限はありませんが、関係機関と情報の共有をしていきたい」との回答でした。また、環境省の課長補佐からは「嘉徳住民からの要望を受けて鹿児島県が行うもので、環境省として工事中止の権限はありません」そして、防衛省の在日米軍協力課からは「米軍に対して、オスプレイの飛行について、安全確保を訴えていきます」というだけで、とても地元のことを理解しているとは思えない回答でした。

奄美ブロックは、これからも自然を守るために、抗議の声を上げていきます。



奄美ブロック代表 関 誠之

危険なオスプレイの飛行を許さないぞ！

鹿屋基地飛来で市長申し入れと抗議集会

防衛省は、4月7日、唐突に陸上自衛隊木更津駐屯地配備のV22オスプレイの海上自衛隊鹿屋基地での空中機動訓練を実施すると発表しました。具体的な飛行ルートや訓練時間の情報は市民には公表されないとの報道を受け、2023年11月の米軍のオスプレイ屋久島沖での墜落事故や奄美空港への相次ぐ緊急着陸が続く中で、今回の発表を受け危機感を感じた大隅ブロック平和運動センターでは、「9条の会おおすみ」や「平和運動をすすめる市民」（以下市民の会）と共に4月14日、市民の命と安全を守るために鹿屋市長に訓練中止を強く求めるよう面会と要望書の提出の行動を行いました。中西市長は、公務を理由に面会には、応じませんでした。市側は、九州防衛局に対し、「市民への安全対策に万全を期すよう申し入れた」とは言いつつも、危機感を感じられない対応に参加者からは、「オスプレイの危険性への問題意識が薄い」「事故が起きた時の責任等への不安や怒り」の声があがりました。私たちは、今後はも市民の命と安全・安心のために、積極的に国に対処するよう申し入れました。



訓練当日とされた4月15日には、市長申し入れと同じく2団体とのオスプレイ訓練反対行動として監視行動とスタンディングを行いました。訓練中止の情報を受け、1時間ほどで、散会しました。翌日の4月16日、訓練実施との連絡があり、再び監視行動とスタンディングを20名の参加のもと行いました。同日、午後3時45分ごろ、オスプレイ1機が飛来し、鹿屋基地に着陸、30秒程で離陸し、大村基地へ戻って行きました。参加者からは、



屋久島沖の墜落事故の原因も、解明できていない中での、訓練実施に対する不安やアメリカ国内では、オスプレイは、住宅上空は、飛行しないという矛盾や離着陸訓練が常態化し市民が慣らされていく事へ不安等、様々な、意見が、出ました。私たちは、オスプレイ訓練にとどまらず、鹿屋基地弾薬庫建設や軍事基地化への動きを、見逃さず、反対の行動の継続を確認して終了

しました。(大隅ブロック 下柳田)